

令和6年度 第3回JSSR国際委員会審議事項

日時：令和6年10月8日（火）19:00-20:00

場所：Zoom

出席：（担当理事）今釜史郎（委員長）酒井大輔

（委員）北村和也、加藤壯、玉井孝司、高橋真治、宮崎正志、高畑雅彦、寺口真年、牧聡、上原将志、大内田隼、山田勝久

（アドバイザー）川口善治、中村雅也

欠席：波呂浩孝、重松英樹、伊東学、松山幸弘、宮城正行

（敬称略）

報告

1. NASS シンポジウムへの参加

高橋委員から参加の報告があった。セッション・懇親会への参加を含め交流を深めた。

2. Spine20（リオデジャネイロ）への参加

玉井委員から参加の報告があった。

審議事項

1. Himalayan spine symposium

川口アドバイザーが参加するネパールの脊椎学会であるが、今回 JSSR から湯川先生らと参加するので、JSSR セッションとするタイトルにして良いかとの提案であった。特に反対意見はなく、ニュースレターへの報告も含め、委員会として承認した。

2. Ganga visiting professorship

川口アドバイザーが Ganga hospital の Dr Rajasekaran から提案を受けた。その推薦方法について。

（酒井委員長）先方が個人病院であるので、MOU を締結するよりも、対象者がいれば JSSR として推薦させていただく方針となった。ATF に併せて派遣することを検討している。

（今釜担当理事）理事会では公募のような正式な選考プロセスにしなくても良いのではという意見もあった。

（中村アドバイザー）JSSR としての正式な派遣というよりも、Dr Rajasekaran との個人的な関係の中で紹介をさせていただくというニュアンスである。

（川口アドバイザー）ニュースレターで Ganga からの告知として掲載して希望者を探るのが良いのではないか。

ATF と併せて派遣という形をとると国際委員会で正式に承認したプログラムとなるので、JSSR としてはあくまで友好的な派遣として紹介するに留める。

3. BASS online 参加について

玉井先生、酒井委員長で参加することとして先方に返答する。録画を提出する形式かウェブ参加なのかは要確認。

4. 2025 ATF, ETF, VSP の公募について

高橋委員から現状の報告。それぞれ10名、2名、2名の派遣予定である。応募要件を45歳以下とすること、同年に両フェローシップに選出されることはなく、ETFに選出されなかった場合はATFの選考に組み込まれることについて提案があった。同年でなければ両方に申請可であることについて、委員から幅広い会員が参加可能となるように制限をした方が良いという意見もあったが、選考の際に過去の参加歴を考慮して委員会で決定するという方針で特に反対意見はなく承認された。今月中に公募をかける予定。

(中村アドバイザー) 本年のEurospineもアクティビティが高く、今後も連携を続けていきたい。

来年後、TWSS, KSSS, Eurospineから2名ずつのトラベリングフェローを、JSSRの後に委員の施設で受け入れをお願いしたい。なるべく多くの施設を回れるよう今年には旅程を組んだが、来年は週に2施設に絞って予定を組む。

5. 2025 JSSR 委員会招聘演者と渡航費用について

11名国際委員会から推薦した。渡航費の上限を設定している。特に反対意見はなく、これに基づいてinvitationを送ることとなった。

6. 2025 APSS-APPOS-MSS シンポジウム企画、Women in Spine

Kuala Lumpurにて来年6月に開催予定。JSSRシンポジウムのinvitationが来ており、テーマはASD、5名によるプログラムを組む必要あり。加藤委員が取りまとめることになった。

またWomen in spineのシンポジウムにJSSRから1名の女性医師を推薦する必要がある。酒井委員長の調査した女性脊椎外科医のリストと、中村アドバイザーの評議員リストから、後日委員が選考することとなった。

(中村アドバイザー)

今後の国際的な取り組みの中で、発表者を国際委員会の中で対応するものと、JSSR全体で対応するもので分けて考えた方が良い。

(酒井委員長)

これまでもオフィシャルに付き合いのある団体は委員会で、先方の求める専門分野が対応しきれない場合に委員会外に依頼をしてきた。MOUで正式に条件が決まっている場合には今後もJSSR全体で対応する。

7. TWSS からの invitation

2025年3月15日のTWSSにJSSRから5名の参加要請があった。前回は酒井委員長、波呂前理事長、高橋委員、トラベリングフェロー2名で参加した。今回もトラ

ベリングフェロー2名、中村アドバイザーに加えて委員会から2-3名を募集したい。

8. 来年度国際学会参加状況調査

アンケートで委員の国際学会参加状況が把握できたので、これに基づいて今後も交流の依頼をかけていきたい。

以上